

2015年11月の金融経済概況のポイント

—— 主に10月の景気指標やヒアリングをもとに判断しました

■景気の基調判断

- 11月も、景気について「個人消費等の回復に遅れがみられるが、基調的には持ち直している」との判断を継続しました。雇用環境の改善傾向が続き、観光も堅調を持続するなど、基調的には持ち直しているのですが、カギとなる個人消費が依然盛り上がりを見せていない状況です。公共投資も全体として少なくなってきました。一方で、新興国経済の減速に伴う影響とみられる動きは、当地ではさほど見受けられないようです。景気全体としてはこれまでと大きな変化はないとみています。

—— 昨年11月にトーンダウン（下方修正）して以降、「基調的には持ち直している」との判断を続けています。

■個人消費の動向

- 10月の大型店売上高は、前年比▲2.7%と引続き前年水準を若干下回る結果でした。
- 10月は、全体的に天候要因もマイナスに作用したようです。特に、月初の週末の低気圧と3連休の台風襲来が響いたとの声が聞かれました。地域別には、旭川市内のマイナス幅が大きい傾向が続いています。旭川市内の店舗間競争が厳しいようです。
- 10月の新車登録台数は、▲8.8%でした。これで本年1月以降10カ月連続で前年割れとなっています。引続き軽自動車の不冴えな状況が続いており、軽自動車だけでみると、前年比▲21.9%でした。軽自動車を除くベースでは同0.0%で、さらに、うち乗用車だけをみると、同+4.8%でした。ニューモデルカーなど、車種によっては堅調に売れている車もあるようです。軽自動車に関しては、本年4月からの軽自動車税の引き上げの影響が続いているようです。

■観光の動向

- 10月は、空港旅客数やホテル・旅館の宿泊客数は前年比プラスで、ホテルの稼働率も、さすがに夏場のピークに比べれば下がってきていますが、前年を上回る状況が続いています。前月までと同様、外国人客が押し上げているようです。「観光地点動向」をみると、場所により区々の実績で、動物園や利尻・礼文など、天候不順の影響を受けた観光地もあるようですが、堅調に推移している先もあります。観光は、季節的にピークを過ぎましたが、全体として堅調を持続していると言ってよいと思います。

■公共投資の動向

- 10月の公共工事請負額は、前年比+3.4%と6カ月振りに前年水準を上回りました。地区別にみると、上川とオホーツクはマイナスで、宗谷の前年比2.3倍が寄与した形です。宗谷のプラスについては、詳細は不明ですが、大口の発注があったものと見られます。全体の傾向としては、前年度の補正予算と合わせた今年度の予算規模が縮小していることから、減少の方向であり、実際、4月から10月までの累計でみると、3振興局計で前年比▲11.8%となっています。

■企業の景況感、雇用動向

- 雇用状況を示す指標は、引続きタイトであることを示しています。9月の有効求人倍率は、旭川が0.96倍（前年0.88倍）と高水準です。稚内は0.99倍（同0.90倍）、北見は1.07倍（同0.96倍）、網走は1.20倍（同1.00倍）でした。

■今後のポイント

- 道北の景気は、決して悪い訳ではなく、堅調ないし回復している部分もあるのですが、全道や全国に比べると、個人消費などで今一つ盛り上がり欠けている状況です。設備投資や住宅投資にも目立った動意は窺われません。また、雇用情勢は改善が続いているのですが、これが賃金の伸びにストレート

に反映しているという感じは乏しいです。こうした点の背景としては、やはり、これまでも申し上げているとおり、企業、家計ともに景気の先行き不透明感がなお根強いことが大きいようです。

- 今後、道北地域の景気全体が着実に回復していくためには、ポイントとなるのはやはり個人消費の動向ではないかと思われます。「所得面からの消費拡大効果」が目に見える形で顕現してくるかどうかをキーとなると思います。

以 上